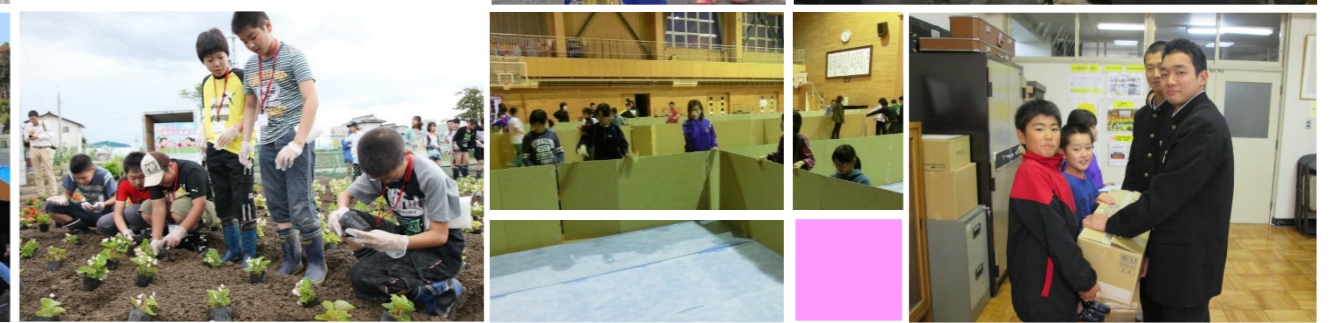


平成26年度 だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業



「被災地交流」 「避難所開設訓練」の記録



市内中学校

被災地交流の概要



<大曲中学校>

★は宿泊を伴うもの

期日	交流の場所	本校参加者	交流先参加者
6月4日(水)	岩手県大船渡市 赤崎中学校 後ノ入地区仮設住宅 大立地区仮設住宅	3年生希望者と職員 26名	赤崎中学校 20名 仮設住宅住民 15名
7月17日(木)	岩手県大船渡市 大立地区仮設住宅 太陽セメント 大船渡工場	3年生希望者と職員 26名 *大曲・東大曲・花館 四ツ屋の4小学校 13名	仮設住宅住民 8名
10月2日(木)	岩手県大船渡市 赤崎中学校 後ノ入地区仮設住宅 大立地区仮設住宅	全校希望者と合唱部員, 生活科学部員と職員 71名	赤崎中学校 141名 仮設住宅住民 30名

<平和中学校>

期日	交流の場所	本校参加者	交流先参加者
9月4日(木) ～5日(金) ★	岩手県大槌町 吉里吉里中学校 陸中海岸青年の家 三陸まるごと体験館	全校生徒と職員 145名	仮設住宅住民 約185名 (花火約120, ゴルフ61, 体験館4)

<中仙中学校>

期日	交流の場所	本校参加者	交流先参加者
7月15日(火)	宮城県気仙沼市 小原木中学校 小原木中仮設住宅 天ヶ沢仮設住宅 大谷小中仮設住宅 小泉中仮設住宅	2、3年生徒と職員 11名 *中仙小, 清水小 それぞれ5名ずつ 10名	小原木中学校 10名 仮設住宅住民 6名
8月29日(火)	中仙中学校	全校生徒と職員 212名	小原木中学校生徒と職員 39名
9月2日(火) ～3日(水) ★	小原木中仮設住宅 天ヶ沢仮設住宅 大谷小中仮設住宅 小泉中仮設住宅	3年生徒と職員 73名	小原木中仮設住宅 32名 天ヶ沢仮設住宅 15名 大谷小中仮設住宅 31名 小泉中仮設住宅 30名 ボランティア会 8名

<南外中学校>

期日	交流の場所	本校参加者	交流先参加者
7月23日(水)	宮城県本吉郡南三陸町 志津川小学校 志津川中学校 志津川中学校仮設住宅 防災庁舎等	南外中学校 8名 南外小学校 22名 保護者、住民 8名	志津川小学校 2名 志津川中学校 3名 志津川中学校仮設住宅民 13名
10月23日(木) ～24日(金)	志津川小学校 志津川中学校 志津川中学校仮設住宅 三陸町さんさん商店街	全校生徒と職員 80名 保護者、住民 29名	志津川小・中学校 3名 志津川中学校仮設住宅民 100名

<太田中学校>

期日	交流の場所	本校参加者	交流先参加者
7月31日(木) ～8月1日(金) ★	岩手県上閉伊郡大槌町 吉里吉里地区仮設団地 おらが大槌夢広場 大船渡市津波伝承館	1年生全員と職員 57名	仮設団地住民 86名
8月11日(月)	大槌第5仮設団地 吉里吉里地区仮設団地	全校生徒と職員 60名 太田地域3小学校 25名 保護者、住民等 16名	仮設団地住民 80名
9月4日(木) ～5日(金) ★	大槌町立大槌中学校 岩手県庁 岩手県立 総合防災センター	2年生全員と職員, 保護者 65名	大槌中学校2年生, 職員 110名
10月24日(金) ～25日(土) ★	大槌町立大槌中学校	3年生全員と職員等 56名	大槌中学校全校生徒, 職員 295名 保護者、住民 約200名

市内小学校



<豊岡小学校>

期日	交流の場所	本校参加者	交流先参加者
8月1日(金)	宮城県気仙沼市 気仙小学校	5・6年児童と職員 31名	気仙小学校児童・職員 46名

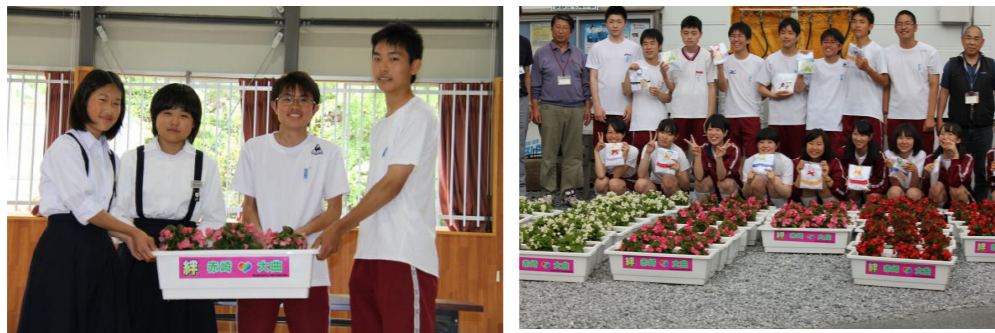
<太田東小学校・太田南小学校・太田北小学校>

期日	交流の場所	本校参加者	交流先参加者
7月9日(水) ～10日(木)	仙台市若林区荒浜地区	太田地域3小学校の6年生 全員と職員等 70名 ※3校合同修学旅行	荒浜地区住民、NPO職員等 7名

H26年度 赤崎に元気・笑顔届けよう

大仙市立大曲中学校

花で飾ろうプロジェクト



学校や仮設住宅、赤崎町の広場にプランターを運び、花を飾ることができました。町民の方からは「広場や沿道に花があり、明るくなりました」と、喜んでいただきました。その笑顔を見て、私たちも嬉しくなりました。

絵画修復プロジェクト

大立仮設住宅の方から「住宅の壁面に飾った絵が色あせてきた。修復してほしい。」と要望がありました。そこで、大曲、花館、四ツ屋、東大曲の4小学校と協力し、「絵を見て笑顔になってほしい」との思いを込めて絵画を修復したり全面的に描き直したりして、届けました。

「絵を見て感動した。つらい思いも全て流してくれるようだ」と言ってくださったのが、印象的でした。



◆赤崎中学校との交流会では、赤崎ソーランや全校合唱を披露していただきました。両校の生徒の感想発表では「来年度も大曲と赤崎のつながりを続けていきたい」と語っていた。

豊かな心プロジェクト



後ノ入仮設住宅では、集会所で生活科学部による「お茶のおもてなし」をしました。大仙市のモロヘイヤを使用した黒糖やカステラなども調理し、お茶と一緒に召し上がっていただきました。「おいしい！ありがとう！」の声が忘れられません。また、合唱部はNHK合唱コンクール曲などを披露しました。合唱を聴いて、涙を流して喜んでくださり、私たちもこの活動をして良かったと思えました。住民の方々とのお話も盛り上がり、とても楽しかったです。



奉仕の心プロジェクト



要望があった窓やエアコンの掃除、花畑の掃除などを行いました。



← 復興支援交流菓子「笑顔咲く 花*花 サブレ」生活科学部が試作を重ね考案しました。生地には県産米粉等を使用し、大曲の花火をデザインしました。地元の菓子工業組合の協力を得て制作したサブレは、約5,000枚を売り上げ、売り上げの全てを赤崎交流活動費として活用しました。10月の交流の際には、赤崎中や仮設住宅の方々に贈り、おいしいと好評でした。

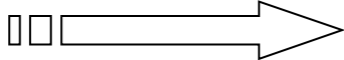
《 大曲中学校 》

10月8日（水）支援の輪をひろげようプロジェクト

笑顔咲く 花*花サブレ



6月から、生活科学部が3ヶ月かけて試作品づくりを重ねてきました。そして9月には、地元菓子工業組合へ相談にいき、レシピやデザインを検討しました。



大曲の花火をあしらったデザインのサブレが完成しました。シールのデザインは、全校生徒から公募したものです。



生徒会が企画した「被災地（赤崎）復興支援プロジェクト」を全校生徒やPTAの方々に、その取組を知っていただき、協力いただくことにしました。「笑顔咲く 花*花サブレ」2, 488枚の注文（協力）をいただきました。この売り上げの全てを支援活動に充てました。10月10日（金）支援のさらなる広がりをもつこのプロジェクトの輪を拡大するため、また、この活動を市民の方々にも知っていただくため、市役所大曲庁舎のみなさんに生徒会から協力依頼に行きました。



市役所の250人以上の方々からのご協力をいただき、1,943枚の注文をとることができました。学校での注文と学校祭での売り上げを合わせると4,928枚になりました。一人一人の思いが、大きな力となることを改めて実感できました。 **みなさんありがとうございました。**

《 平和中学校 》

平成26年度 平和中学校被災地交流

「物の支援よりこころの支援を」

■期 日 平成26年9月4日(木)～5日(金)
 ■場 所 岩手県 大槌町・山田町・釜石市・大船渡市
 ■活動の様子



炊き出し訓練
 陸中海岸青少年の家
 避難所開設宿泊訓練の
 カレーライスの炊き出しを練習しました。

復興支援ミニ花火大会
 吉里吉里漁港付近
 北日本花火興業さん、和火屋さんの協力を得てミニ花火大会を開催しました。



献花・黙禱
 旧大槌町役場
 解体が予定されている旧庁舎の前で震災犠牲者の追悼を行いました。

第3回 大槌・神岡交流グラウンドゴルフ大会
 吉里吉里中学校仮設グラウンド
 開催を心待ちにしていた仮設住宅に暮らす方々とグラウンドゴルフを通じて心の交流を図りました。過去最高の61名の方々に参加してくださいました。



三陸鉄道南リアス線 体験乗車
 南リアス線(釜石～盛岡)
 被災地の復興のシンボルとして4月5日に全線開通した三陸鉄道南リアス線に乗り、被災地の方々の思いを「見て」「聞いて」「感じて」きました。特に、被災地の方々の前向きに生きるたくましさを感じてきました。



- 成 果
- ・グラウンドゴルフを通じて仮設住宅に暮らす方々との心の交流を図ることができました。【他を思いやる心】
 - ・被災地の「現在」を「見て」「聞いて」「感じて」これからの生き方を考えるきっかけとすることができました。【生き方指導・キャリア教育】
 - ・ふるさと神岡を見つめ直し、「自分たちにできることは何か」を再確認し、避難所開設訓練に向かう気持ちを高めることができました。【たくましく生きぬく力】【社会で役立つ力】【ふるさと教育】

「中仙中学校3年(陽虹学年)の被災地交流活動」

～宮城県気仙沼市にて～

中仙中学校3年部

7月15日(火)に清水小, 中仙小, 中仙中の代表児童・生徒16名, 教職員6名, 計22名で気仙沼市を訪問した。このうち, 本校は生徒会執行部7名と校長, 生徒会担当の佐藤, 小松そして学年主任の高橋の11名で参加した。小原木中学校を訪問し, 翌月中仙中で行われる両校生徒の交流会当日の活動についての打合せを行った。事前に小原木中学校の先生と連絡調整を行っていたおかげで打ち合わせがスムーズに行えた。小原木中の生徒・教職員の心遣いがすばらしく, 絆を深めるきっかけづくりや人を支えることの尊さを学び, 思いやりの心を養うことができたと思う。また, 各仮設住宅(小原木中学校仮設住宅, 小泉中学校仮設住宅, 大谷小・中学校仮設住宅, 天ヶ沢仮設住宅)では, 小学生も一緒に巡回し, 9月2日, 3日に予定されている3年生の訪問についてのPRちらしと各小学校で制作したカレンダーやうちわを住民の方々に直接手渡した。



(小原木中図書室での打合せの様子)



(各仮設住宅で, 9/2,3の案内配布の様子)



8月29日(金)に小原木中学校は全校生徒28名, 職員11名をお招きし, 交流活動を行った。学年ごとにプロジェクトアドベンチャーを行い, 親睦を図った。その後, 各クラスに小原木中学校の生徒を招き, 一緒に給食をとった。午後からは, 両校の学校紹介を行った後, 小原木中学校から全校生徒による「小原木ソーラン」を, 中仙中学校が訪問生徒全員による「ロックドンパン」を披露し合った。ダイナミックで勇壮な「小原木ソーラン」の太鼓と舞には, 本校の生徒, 職員ともに圧倒された。「ロックドンパン」では, 小原木中学校の生徒も一緒に踊るなど, 大いに盛り上がった。最後に両校の生徒たちで, 協力して制作活動を行うことで絆を深めることができた。



(PAで一緒に活動している様子)



(クラスで一緒に給食を食べている様子)



(小原木ソーランを見学している様子)



(ロックドンパンを踊っている様子)



(共同制作をしている様子)



(両校生徒の記念写真)

9月2日(火), 3日(水)の2日間, 本校3年生66名, 校長, 3年部職員5名, 養護教諭の計73名で気仙沼市を訪問した。1日目, 10時30分頃, 開館して間もない「シャークミュージアム」に到着し, 地震直後の気仙沼の様子を映像や写真で見て, 改めて地震の恐ろしさを実感した。その後, 「リアス・アーク美術館」を訪問し, 実際の被災物や写真を見た。午後から, 小原木中学校体育館を会場に, 校庭に建てられた仮設住宅の方々32名をお招きして, 「ロックドンパン」「ヤートセ」「吹奏楽部によるアンサンブル」「抹茶のお手前披露」「合唱」を披露し, 仮設住宅のみなさんと交流して親睦を深めることができた。また, 夜は「街づくり・防災」, 「仮設住宅・住宅再建」というテーマで, 地元NGOシャンティ国際ボランティア会の方々から講話をいただき, 震災時の生々しい映像を見せていただき, 復興に向けての課題等について学んだ。



(シャークミュージアム)



(リアス・アーク美術館)



(住民と交流している様子)



(住民と交流している様子)

2日目, 3班に分かれて, 大谷小・中学校仮設住宅(住民31名参加), 天ヶ沢仮設住宅(住民15名参加), 小泉中学校仮設住宅(住民30名参加)をそれぞれ訪問して, 「ロックドンパン」「ヤートセ」「吹奏楽部によるアンサンブル」「抹茶のお手前披露」「合唱」を披露し, 仮設住宅のみなさんと交流し, 親睦を深めることができた。生徒たちは, 直接被災された方々からお話をお聞きすることで, 新聞やテレビでは感じられない多くのことを学んだ。



(仮設住宅の住民と交流している様子)

仮設住宅を訪問後, ちょうど1年前, 地域住民の総意で建築したという前浜コミュニティセンターに集まり, シャンティ国際ボランティア会の方々と共に, 活動のふり返しをして復興の現状について知るとともに, 今回の交流活動の意義やこれから自分たちができることについて考えを深めることができた。昼食・休憩後, コミュニティセンターを出発。午後5時10分頃帰校した。2日間を通し, 大きく体調を崩す生徒もなく, 本当に意義のある体験交流活動であったと思う。

生徒の作文から

私は, 被災地を訪問してたくさんのことを見たり聞いたりしました。1日目に行ったリアス・アーク美術館が心に残っています。そこには被災した現場に職員が行き, 撮影された写真やぐちゃぐちゃになった日用品などが展示されていました。亡くなる時までギュッと抱きしめていたランドセル。3時33分で止まってしまった時計。日常使っているものが想像もつかない形になっており, とてもショックを受けました。夜には, シャンティボランティア会の方から「街づくり・防災」, 「仮設住宅・住宅再建」の2つのテーマで講話していただきました。人と人のつながりや地域とのつながり, 集会所の大切さなどを知ることができてよかったです。

2日目は仮設住宅の住民の皆さんと交流しました。私はお茶のお点前の披露を担当しました。真心と感謝の気持ちを込めて一杯一杯お茶を点てました。住民の皆さんの「おいしい」という声を聞いたり「笑顔」を見せていただいたりしたので, 訪問して本当に良かったと思うことができました。また, 本当は辛いのに震災時のお話や体育館での避難生活の様子などを聞き, とても貴重な時間を過ごすことができました。

全体を通して, 私は学校で勉強していることを当たり前で, 家があって普通に暮らしていることなど何気ない毎日がとても幸せだなと思いました。実際に見た海はとてもきれいだったのに, あの海が津波で真っ黒になるとは思われませんでした。この訪問で, 住民の皆さんから逆に元気もらった気がします。この元気は, また被災地に行った時にあげられたらいいなと思います。この2日間は私自身を成長させることができ, とてもいい経験になりました。(3年 伊藤帆乃香)

『南三陸町に笑顔と想いを届けよう!』

平成26年度大仙市立南外小・中学校被災地交流事業

- ◆交流活動Ⅰ 南三陸町視察研修(被災地の実際を学び、支援の方法を考える)
- ◇視察地 南三陸町、志津川小・中学校、志津川中学校前仮設集会所
 - ◇研修内容
 - ①震災4年目の現状を見学する(防災庁舎、旧魚市場)
 - ②津波体験や避難所での生活を学ぶ(志津川小・中学校職員、仮設自治会役員の方から)
 - ◇参加者 南外地域の方(2名)、小・中学校保護者(8名)、南外小6年生(16名)・中学生(5名)

- ◆交流活動Ⅱ 南三陸町仮設住民の方との交流(心の交流をとおして、笑顔と想いを届ける)
- ◇志津川小学校へ…南外小学校から預かったメッセージカード付き新米30kgを届ける
 - ◇志津川中学校へ…南外中学校から文化祭等の収益金とメッセージカードを贈呈する
 - ◇仮設住宅の方との交流…炊き出し体験の実施、ヨサコイソーランの披露
 - ◇参加者 南外地域の方(15名)、中学校保護者の方(13名)、中学生(70名)、職員(14名)



2007年の町並み

2014年10月 かさ上げや新たな道路づくりも進んでいる

◆左の写真は志津川中学校から2007年に撮影した町の風景です。右が2014年10月に撮影したものです。かさ上げも進み、新たな道路もできるなど津波で一変した町が徐々に復興しつつあります。

南外地域の方、南外小・中学校の保護者の方、南外小・中学生が被災の様子を学びました。



志津川小学校

志津川小・中学校で避難所の生活を学びました。

志津川中学校

- ◆志津川小・中学校での学び
- ・震災発生時の様子について
 - …小学校は帰宅した児童もいたが、卒業式準備等で多くの児童生徒が学校にいて被害を免れた。
 - ・避難生活について
 - …児童生徒の安否確認と避難所運営を同時に進めるために、児童生徒、教職員、住民が助け合い、励まし合いながら避難生活を送った。
 - …暖房や飲み水、食料の調達、衛生面への配慮等みんなで協力し、助け合った。
 - ◆仮設住民の方からの学び
 - ・仮設住宅での生活について
 - …一時しのぎの生活が4年目を迎えている。なかなか進まない復興にはがゆい思いをしている。
 - …互い助け合う生活が一体感、絆を生んでいる。仮設ごとの集団高台移転を希望している。

・仮設住民の方の交流への想い
 …震災は人ごとではなく、誰にでもいつでも起きる可能性があること。ここでの学びをみんなに伝え、何かあったら率先して動けるリーダーになってほしい。震災を風化させてほしくないが、支援という上から目線ではなく、ともに明るい未来を築こうとする仲間としての「交流」を望みたい。

「心の交流」を通して、南三陸町に笑顔と想いを届けよう!

心温まる交流が実現!



生徒も「キリタンポ」づくりを頑張りました。

佐々木支所長はじめ保護者の方も交流に参加しました。



好天のもと炊き出し体験は大好評でした。



◆南中生は「ソーラン」を、南外地域の方は「南外小唄」を、仮設住民の方は「盆踊り」をそれぞれ披露しました。参加者全員で手拍子に合わせて歌ったり、踊ったり「笑顔と歓声」につつまれ思い出に残る楽しい交流が行われました。

「心の交流」を通して、南三陸町に笑顔と想いを届けよう！

交流を終えての感想（地域の方、保護者、中学生各代表）

南三陸町との交流を終えて

大仙市南外支所長 佐々木 清哉

仮設住宅の人々は私たちが温かく笑顔で迎えてくれた。南中生主体の交流から保護者や地域の人たちも加わり、それぞれの思いを胸に参加した交流支援。わずかな時間ではあったが、中学生が作ったきりたんぼ鍋や地域の方が差し入れたリンゴに会話の輪が広がった。圧巻は南中生が披露した「よさこいソーラン」。佐々木自治会長はじめ参加した方々から「元気と勇気をいただいた」と絶賛された。心の交流がなされた瞬間であった。



仮設住宅に三年余りの月日が流れ、さらに確たる目処も立たない状況の中で、今後も不安な生活を余儀なくされている被災者の方々。

彼らの心の癒しには到底及ばないながらも、交流の中で見せた笑顔は我々にとっても救いとなった。この交流を契機に自主防災組織の交流や南外地域祭への物販販売など相互交流を拡大させ、一步一步元気な日々を刻んでいけるよう心の交流を継続させていきたいものと心から願っている。



初めての南三陸町との交流を終えて

1年A組 佐々木 心都

先日は、大変お世話になりました。初めての南三陸町訪問で、どんなところかもよく分かりませんでした。復興はしていても、がれきが残っていたりして住みにくそうでした。でも、地域の人たちと交流をしてみると、とても歓迎してくれて、優しく接してくれて元気をもらいました。みんなできりたんぼ鍋やはっと汁を作ったときも手伝ってくれて、おいしい料理を作ることができました。2、3年生が作ってくれたおにぎりもおいしかったです。そして、南三陸の海でとれたムール貝も潮の香りがしてとてもおいしかったです。また、食べてみたいと思いました。南中ソーランは踊らなかったけど、南外小唄や南三陸町のみなさんと踊った盆踊りはいい思い出になりました。

「来年もおじゃますることになるとは思いますが、その時はもっと復興できていることを願います。今度は南外にも遊びに来てください。」

南三陸町との交流を終えて

2年A組 佐藤 雄太

昨年の訪問では、きりたんぼ鍋とはっと汁の炊き出しや、YOSAKOIソーランを披露したりしました。さらに今年は、地域の方々と一緒にいったため、りんごを切ったり南三陸で獲れた貝を食べたりすることができました。また、踊りを披露することだけではなく、逆に踊りを見せてもらうことができました。南三陸町のみなさんの踊りはキレイがあつてとてもきれいでした。来年も是非見せていただきたいと思いました。

少しずつ南三陸も、元の姿に近づいてきたことと思います。あと一息、お互い協力して、少しでも早く元の生活に戻れるよう頑張っていきたいと思います。

来年の交流は、僕達2年生にとって最後になります。この2年で交流はとても深くなったと思うので、これから先も、もっと深められるよう努力していきたいと思っています。

半日という短い時間の中で、様々な活動を通し南三陸町のみなさんとの距離が近くなるのはとても嬉しいことです。これからも様々な活動を通し、南外と南三陸町の交流を深めていきたいと思います。

一日でも早い復興を願っています。

南三陸町のみなさんとの交流を通して

3年A組 伊藤 真央

今回の訪問は私にとって4回目でした。何度訪れても、なかなか変わらない現状に私自身も悲しくなりました。しかし、志津川地区の方々はとても前向きで、逆に元気づけられたような気がしました。

一緒に作って食べたきりたんぼ鍋とはっと汁もとてもおいしかったです。仮設住宅の方々に、食べ終わった後に、「とてもおいしかった。ありがとう。」というふうに言われたことが深く印象に残っています。

また、南中ソーランを披露したときも、一緒にハッピーを着たり、鳴子を鳴らしたりして喜んでくださったので、本当に嬉しかったです。踊り終わった後には、「元気をもらった。ありがとう。」という言葉をいただき、みなさんの笑顔を見ることができたので、本当に良かったと思います。

「笑顔を届ける」ことを一つのテーマとして行ってきたこの南三陸町のみなさんとの交流は、とても充実したものとなりました。志津川地区のみなさんに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

南三陸町の訪問を通して

3年A組 大槻 悠也

今回2回目の南三陸町訪問となりました。今年は生徒会として志津川小・中のみなさんに収益金、南外小からのお米、メッセージを贈りました。その時に、小・中学生の授業の風景を少し見ました。そこで感じたことは、誰一人と落ち込んだり、引きずっている人が見られず、笑顔の子どもたちが多く、逆に元気をもらうことができたので、とても嬉しかったです。そして収益金などもぜひ使っていただけたら嬉しいです。

午後からは仮設住宅の方々との交流となりました。昨年に同様きりたんぼ汁とはっと汁を作り、一緒に食べました。今年とはれたばかりの貝やホタテを食べることができてよかったです。そしてその貝やホタテの味はとても美味しく、今でもあの味が忘れられません。

その後はYOSAKOIを披露して、仮設住宅の方々にたくさんの手拍子をもらうことができ、とても嬉しかったです。南三陸町の自治会長の佐々木長平さんをはじめとして皆さんがとても元気で、ここでも逆に元気や笑顔をもたらすことができ、本当に嬉しかったです。僕はもうこのような形で訪問できませんが、将来大きくなったら、また南三陸町へ行ってみなさんと交流したいと思っています。南三陸町、そして被災地の復興を願っています。共にがんばっていきましょう。

南三陸町との交流の報告

南外中学校PTA会長

鈴木 幸一

保護者代表の先発隊として、3名が23日に南三陸町入りし、早速、仮設住宅自治会長さん等と研修の場をもちました。災害に出くわしたときの身の安全を第一に考えた避難のあり方、それに備えた自主防災組織づくりを学び、切実なお話と考えさせられることが多々ありました。

そして交流会当日の朝、天候は快晴、民宿を後に志津川中学校グラウンドの仮設住宅を目指しました。到着するなりハプニング発生、何とイベント会場予定地の駐車場の中央に一台の軽乗用車があるではありませんか。車の所有者は不在、鍵が無いとのことでした。すると、その後すぐにとった自治会長さんの行動に驚かされました。移動販売のトラックで乗りつけて、軽自動車をけん引するというのです。けん引は、説得し断念していただき、皆で車両を持ち上げて移動しようとした。よし本番「せえの」と叫んだ途端、「カチャ」とドアロック解除の音が。車の持ち主が現れロックが解除されたのでした。皆、胸を撫で下ろした瞬間でした。南外地域の先発隊と、仮設住宅の皆様とで、早朝からの協同作業にあたり、今回の交流事業が成功できると思った瞬間でもありました。今後とも保護者、地域が一体となった南三陸町との交流事業が継続できることを祈念し、交流事業の報告とします。



太田中学校生徒会からの報告

発行：平成26年11月11日(火) 大仙市立太田中学校生徒会

平成26年度の太田中学校の大槌交流活動を紹介します ～岩手県大槌町立大槌中学校、大槌町仮設団地の方々との交流から～

今年度の交流活動について

これまでの心のつながりを大切に活動の意図や目的を再確認しながら学年生徒会、生徒会執行部、JRC事務局が中心となって活動を進めています。自分たちの目で確かめること、さまざまなことを肌で感じること、そして感じたことを共有し合い少しずつ変化していく大槌町を応援していくという気持ちを大切にしていこうとすることを根幹に今年で4年目の活動になります。

さらに、生徒間交流によって互いの学校文化のよさを実感し、刺激を受けることによって学校生活の向上にもつながっています。

**7月16日(水)全校生徒と保護者
「荒れ狂った海～被害状況とその教訓～」
PTA親子講演会 熊谷 勳 先生
(元大船渡市綾里小学校長)**



熊谷勳先生から東日本大震災当時の大船渡市の被災状況についてお話をうかがいました。特に児童生徒にかかわる被災状況について詳しく説明をしていただき、想像以上に厳しい状況であることを知りました。家族を津波等で失った同世代の子どもたちは今、どのような生活をしているのだろうと心配になりました。また、三陸地方では昔から津波被害に見舞われ、さまざま教訓が伝えられていることもわかりました。熊谷先生が赴任した学校では津波の被害状況や教訓を知らせる看板を設置したり、児童による劇を制作するなど後世に語り継ぐ努力をなさっていることに心を打たれました。

私たちに語ってくださった多くの教訓を今後も大切に、防災について考えていきたいと思いました。

**7月31日～8月1日(水)1年生全員
「東日本大震災被災地を知ること」**

1年生は東日本大震災時は小学生でした。大きな震災によって大きな被害を被った地域があるという事実は漠然とした記憶にとどまっていた。そこで、被災地を訪問し、まずは、当時の被害状況や現状を知ることが大事であると考えました。



最初に大槌町を訪問し「おらが大槌夢広場」の語り部ガイドから大槌町の被害状況を教えていただきました。そこで出会ったガイドに、4年前プランターを贈呈したときに大槌中3年生だった方がいました。その当時の思いも語っていただき、先輩たちの活動が大きな力になったことを私たちは理解しました。また、8月に開催するミニコンサートのチラシを吉里吉里仮設団地に配布しました。

翌日、大船渡市、陸前高田市を訪問し、まだ復興の足音が遠い被災地を目の当たりにしました。大船渡市では大船渡津波伝承館の館長さんからほんの数分で町が津波によってなくなってしまった事実を知り、衝撃を受けました。陸前高田市では奇跡の一本松を見て、美しい松原が一瞬にしてなくなったことに驚きました。語り部ガイドの方のお話は生々しく、私たちの心にずっしりと響きました。

被災地の方々がたくさん生きようとして、いる姿を見て、当り前の生活のありがたみを実感しました。自分たちにできることを先輩たちと一緒に考えていきたいと思っています。



**8月11日(月)執行部、生徒有志、高校生
小・中学校保護者、町内外4小学校児童有志
全校生徒が制作した「手作りうちわ」を届け
ふれあいミニコンサートを開催しよう**

岩手県大槌町吉里吉里と和野地区の333軒の仮設住宅に太田中全校生徒と太田3小学校の児童が制作したうちわを届けました。昨年度に引き続き、本校卒業生が絵付けした手作り風鈴も届けました。



町内外4小学校と地域の方々に参加を呼びかけたところ、総勢101名の「太田ふれあい隊」になりました。継続訪問している吉里吉里、和野の仮設住宅1軒1軒にうちわと風鈴を届けました。私たちの訪問を笑顔で迎えてくださり、うれしく思いました。

さらに、小学生と中学生で編制した吹奏楽ミニコンサートを開催しました。今回は演奏曲リストの中から住民の方々から選曲していただき演奏しました。リクエスト曲の演奏によって、共に楽しみ盛り上がることができました。

毎年の訪問のことを覚えている方々の励ましの言葉に勇気づけられました。そこで、仮設団地の入居者が減っていることに気づきました。災害復興住宅に入居できた家族もいるそうですが、町内に住居を建てることのできないため、町外に転居しているとのこと。人材流出はこれからの大きな課題であると思いました。



**9月4～5日(木、金) 2年生全員
「大槌に色彩を届けよう Part4」**

今年度も250個のプランターに赤・白・ピンクのペゴニアを植え、全校生徒で大切に育てました。そして、地域の方々の協力を得て、2年生全員が大槌中仮設校舎に届けました。



大槌中2年生と贈呈セレモニーや合唱・エール交換をしました。大槌中と太田中の生徒がペアになってプランター運搬作業を行いました。お互いに協力し合い、声を掛け合う中で自然に会話ができ、心の距離が近づいたように感じました。

プランターに差し込むメッセージカードを書くとき、どんな言葉を書くべきかととても悩みました。相手のことを思う気持ちをどのように伝えたらよいかよく考えました。そして、大槌中のみなさんの力になるよう丁寧にしました。



翌日は岩手県庁を訪れ、復興局の職員の方々に太田中の被災地交流活動について説明し、アドバイスをいただきました。私たちの活動の趣旨を理解していただき、被災地の復興の力になっているという言葉に感謝の気持ちが溢れました。また、岩手県の復興計画について具体的な説明を聞きました。私たちに何ができるのかを改めて考えていきたいと感じました。

**10月5日（日）太田中学校祭
大槌中学生徒会執行部12名をご招待**

4年目となる大槌中学生徒会執行部の招待は12名の方に來校いただきました。前日から太田入りしていただき、当日の打ち合わせやリハーサルを行いました。当日のオープニングセレモニーでは大槌中学生徒による「語り部プロジェクト」の発表がありました。これまでの支援・交流に対する感謝の言葉やこれからの大槌中や大槌町に対する思いなどを語っていただきました。震災を語り継ぐだけでなく、未来をどう築くか、そのためにどう生きていくかということを語る姿に私たちが自分たちを見つめるきっかけになりました。

太中祭を楽しんでいただき、昼にお見送りをしました。大槌中のみなさんの笑顔に私たちも心が温かくなりました。片道4時間、一緒に過ごす時間は短いですが互いのよさを交流し合う機会になりました。



**10月24～25日（金、土）
3年生全員
大槌中学校文化祭PRと参加
～大槌町ショッピングセンターでのPR活動～**

大槌中学校の文化祭PRのため、大槌町「シーサイドタウン マスト」のセンターコートでこれまでの交流の歩みの発表と合唱・太鼓演奏披露をしました。マストのご厚意ですてきなポスターを制作していただき、事前の宣伝活動も盛大に行うことができました。

最初に大槌町との交流活動についての報告をしました。お客様方が私たちの発表を聞きながらうなずいてくださり、改めて大槌町の皆様の優しさに心を打たれました。そして合唱「生きている証」を歌うとホールに歌声が響き渡りました。そして、夏休み後から練習をしてきた東今泉八幡太鼓の演奏です。この太鼓は太田地域に伝わる貴重な伝統芸能であり、私たちは太中Ver.「魂輝太鼓」と名付け演奏を披露しました。店全体を揺らすような勢いでたたき、大槌町の皆様を元気づけたい、勇気づけたいという思いを込めて丁寧に演奏しました。演奏が始まるとお客様が増え、さ

らに曲の途中で拍手をいただく場面が何回もありました。太鼓文化の盛んな地域の方々からいただいた拍手はとても励みになりました。



そして最後に大槌中学校文化祭のPRを行いました。大槌中校長先生が持ってきてくださった文化祭パンフレットをお客様に配布し、たくさんの來校を呼びかけました。

翌日、いよいよ大槌中文化祭会場である城山公園体育館に向かいました。全校生徒と地域の方々合わせて約500名のみなさんと共に開祭式に参加しました。太田地域からお預かりした新米800kgと小学校からのメッセージカードをそこで贈呈しました。



その後、太田中3年生の合唱を披露し大槌中の合唱コンクールを鑑賞しました。大槌中のみなさんの豊かな表現力に目を奪われました。全身で表現している姿に私たちも見習いたいと強く思いました。昼まで合唱コンクールを鑑賞し、生徒会執行部のみなさんのお見送りをいただき、会場をあとにしました。互いの文化交流によって刺激し合う新たな側面も見えてきました。

旧大槌町役場前で献花、黙祷を行いました。役場庁舎は前面を残し、取り壊されています。震災遺構として残る庁舎は私たちにとっても大槌町の被災状況を実感できる場所であり、毎年訪問しています。これからも大槌町を見守り、支えていきたいという気持ちを確認しました。そして、私たち3年生が卒業してから被災地とどうかかわるのかについても考えていきたいと思いました。

**12月13日（土）
執行部、生徒有志、太田地域のみなさんとともに
手作りのクリスマスカード&おやきを届けよう**



寒い冬を乗り越えていただく力になりたいと考え、生徒会執行部の企画で4度目となる大槌町仮設団地へのクリスマスカード&おやきの配達を行います。

全校生徒が心を込めてカードを制作し、心の交流を図る活動になるよう準備を進めています。



**平成27年3月 支えてくださる皆様へ
大槌交流活動報告展**

1年間の大槌交流についての報告展を太田文化プラザで行う予定です。各学年の活動の様子を新聞形式やレポート形式の紙面で報告したり、生徒会や小学校と連携して行った活動についてまとめたものを掲示するなど全校生徒の手作り報告展です。

昨年度は、大槌中学生徒会からいただいた映像資料や大槌町の特産物の紹介コーナーなども展示しました。

具体的な内容については、今後、決定次第お知らせいたします。

今年度の交流活動にあたって

本校の被災地支援活動は4年目となります。最初は物資の支援、そして被災地の力になるような何かをと思い、活動を進めてきました。

活動を進めていくうちに、被災地の状況も少しずつ変化し、被災地の人々とかかわっていくうちに、心の傷そのものをなくすことはできない、でも心の支えになるようなことは何かできるのではないだろうかと思うようになりました。

そこで、太田中では被災地支援から被災地交流へと活動の方向性を変化させながら活動しています。そして、本当に自分たちの活動が被災地の方々を支えているだろうかと思えながら活動するように意識しています。

私たちの活動は生徒の力だけではできないものがあります。花を育てることはできても、それを運搬するためには大人の方々の力を借りなければなりません。そういったときに太田地域には手を貸してくださる方々がたくさんいらっしゃいます。物資だけでなく、人的支援もいただきながら私たちの活動を支えてくださいます。そのときに地域の温かさ、ありがたさ、そして私たちを見守ってくださっているという安心感が実感でき、ふるさと太田のよさの発見、そしてふるさとを大切にしようとする気持ちの高まりにつながっています。大槌中の語り部プロジェクトのお話からもふるさとを大切に思う気持ちを強く感じました。ふるさとに支えられ私たちは生きているという気持ちはみんな共通の思いであると思います。



昨年度から太田地域小・中学校連携会議が発足しました。それぞれの学校の代表児童生徒が一堂に会し、各校の取組や共通の課題などを確認しています。そこでも、小学校児童会から積極的な協力をしたいという声があがり、アルミ缶回収やうちわやカード制作など小学校からも提供していただきました。

小・中連携の活動も軌道に乗り始め、これから太田地域として大槌町に元気を届ける活動を今後も継続していきたいと考えています。



市内中学校

避難所開設訓練の概要



＜大曲西中学校＞

★は宿泊を伴うもの

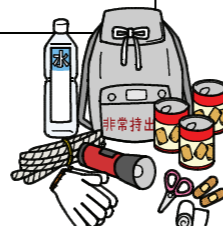
期日	主な活動	参加者
9月4日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練 中学生による避難所開設 避難住民受入 炊き出しの提供 自主防災組織への引き継ぎ 	<ul style="list-style-type: none"> 全校生徒及び職員 91名 地域住民(P.T.A含む) 88名 中学生サミット 86名 関係機関 19名 市教育委員会 9名 合計 293名

＜大曲中学校＞

期日	主な活動	参加者
10月30日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練 煙道避難訓練 水害避難訓練 中学生による避難所開設 避難住民受入 炊き出しの提供 	<ul style="list-style-type: none"> 全校生徒及び職員 811名 地域住民 25名 P.T.A会員 15名 関係機関 10名 合計 861名

＜平和中学校＞

期日	主な活動	参加者
10月16日(火)～17日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練 中学生による避難所開設 避難住民受入 炊き出しの提供 	<ul style="list-style-type: none"> 全校生徒及び職員 122名 地域住民 88名 神岡小学校児童及び職員 40名 関係機関 10名 市教育委員会 1名 合計 261名

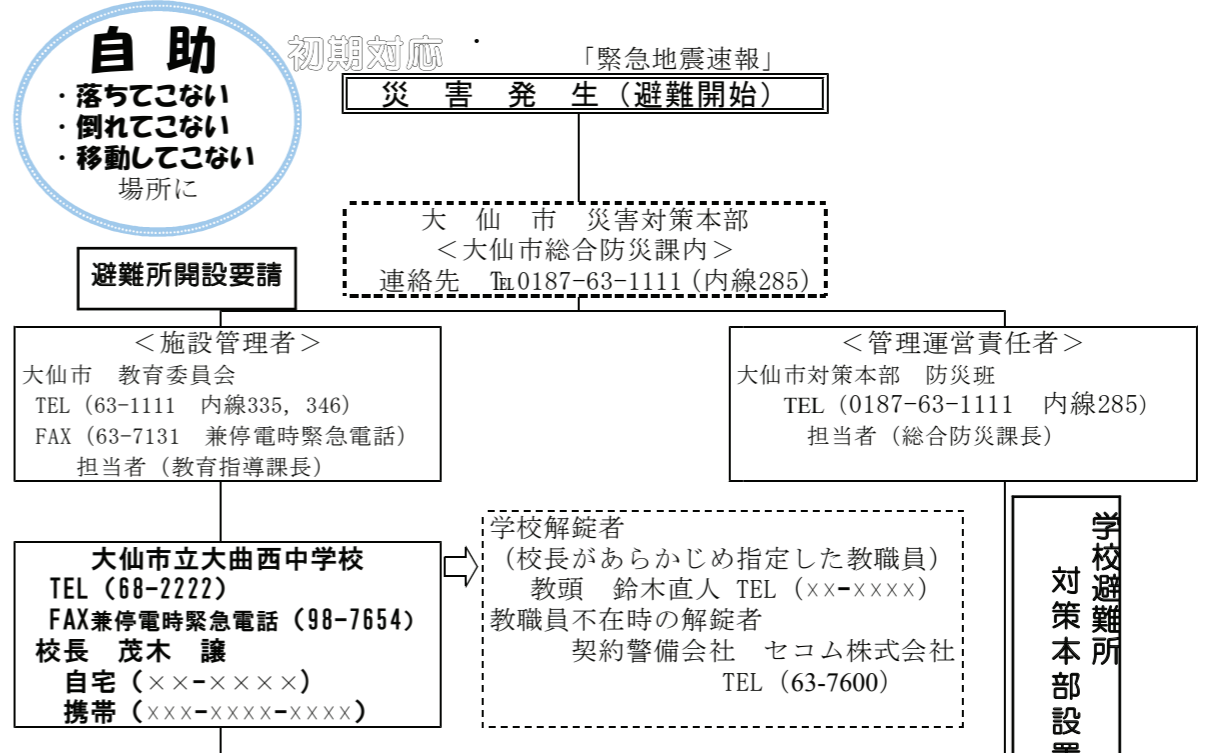


市内小学校

学校名	実施日	主な活動
西仙北小学校	★10月24日(金)～25日(土)	6年生による避難所開設訓練(体育館に宿泊・炊き出し訓練)
神岡小学校	10月17日(金)	6年生と地域住民による地域避難訓練(車いす対応・資料コーナーの設置・市防災危機管理監の講話)

大仙市立大曲西中学校避難所対応マニュアル

＜参考＞「大仙市地域防災計画」「学校防災マニュアル作成の手引き」(H24.3 文部科学省)＜
【本校の避難所指定(校舎全体)】【本校の避難場所指定(グラウンド)】 平成26年4月作成



二次対応 「大仙市地域防災計画」より
大曲西中学校 避難所対策本部設置
 責任者：市対策本部民生部救護班＜社会福祉課等＞・防災班＜総合防災課＞
 校長(茂木 譲)・・・施設管理面
 場所：大仙市立大曲西中学校 校長室
 構成員：大仙市担当者(市対策本部より)
 学校管理者(校長 茂木譲) 地域住民代表者 P.T.A代表(会長 山崎精輝)
 *事前に地域住民代表者との連携が必要

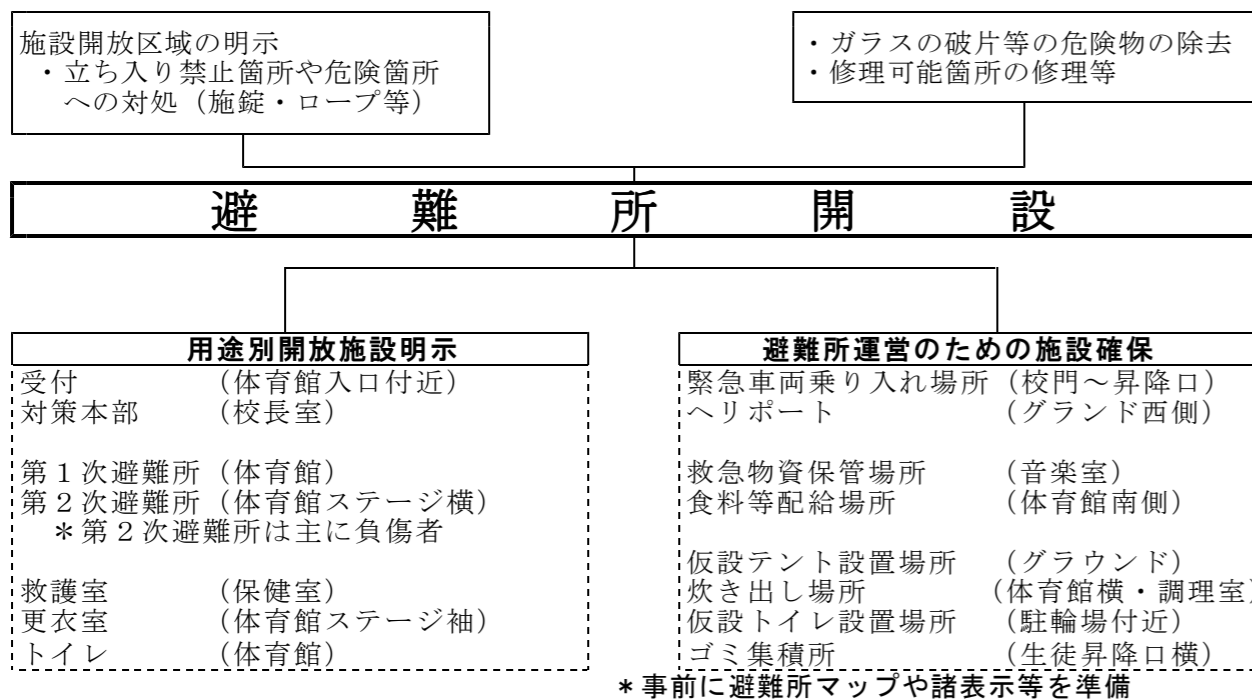
- 教育委員会に現状報告
- 施設の安全確認
 - 児童、教員の安否確認
 - 非常参集体制
 - 避難者来校状況
- 担当者(教頭)
- 避難所施設安全確認及び安全確保
 - 使用施設の被災状況調査
 - 避難所開設可・不可の判断
- 第1避難場所
 地震＜体育館＞
 水害＜体育館＞
 避難者駐車場
 ＜前庭＞
 避難者対応職員
 ・中安 統

- 【初期安全点検の項目】
- 構造部等の状況 <参考～内閣府「建築物の応急危険度判定調査表」>
 - ・隣接建築物や周辺地盤の破壊状況
 - ・基礎や構造全体の傾斜
 - ・柱などの部材の破断
 - 非構造部材の状況 <参考～文部科学省「学校施設の非構造部材の耐震化ガイドブック」>
 - ・天井・内装材・照明器具・窓ガラス・外壁・設備機器
 - ライフラインの状況
 - ・ガス漏れ
 - ・水道、トイレ
 - ・電気
 - ・電話
- *判断困難な箇所については、専門家の診断を依頼する。
 連絡先 大仙市災害対策本部(応急危険度判定士による点検)

他の職員は生徒対応 最優先

- ・安否確認メール
- ・「引き渡し」カード

⇒ 避難者受入開始



学校職員避難所対応役割分担

収容人数 808人 避難施設面積 1617㎡
*「大仙市地域防災計画」避難所一覧より

【施設・安全班】 使用箇所の明示 住居スペースの確保	担当者 佐藤 <ul style="list-style-type: none"> 安全点検と応急復旧 各種表示 パーテーション設置
【総務班】 被災者受け入れ 問い合わせ対応 自治組織結成支援 ボランティア受け入れ	担当者 教頭、中安、齋藤、阿部 <ul style="list-style-type: none"> 受付の避難者名簿の作成と管理 避難状況の掌握（避難者数・健康状態他） 自治組織結成に向けた準備 ボランティア人数掌握、活動計画
【連絡調整班】 情報連絡活動（パソコン）	担当者 大河、藤田 <ul style="list-style-type: none"> 被害状況の把握と避難者への情報伝達（情報の複線化） 避難者用緊急電話設置依頼 外国人のための案内看板設置
【物資班】 毛布等の配給 衣料・生活物資受け入れ 炊き出し準備	担当者 市川、小原、大友、伊藤浩 <ul style="list-style-type: none"> 避難所対策本部の責任者を通じて災害対策本部に請求
【給食班】 食料及び飲料水の確保 炊き出し準備	担当者 市川、小原、高橋、大友、伊藤浩 <ul style="list-style-type: none"> 食中毒等衛生面の配慮 避難者への配給計画
【救護班】 負傷者への応急処置 医療機関との連携	担当者 養護教諭（伊藤志）、佐々木 <ul style="list-style-type: none"> 応急手当セット（保健室） 救急車 TEL 119 大曲厚生医療センター TEL (63-2111)
【衛生班】 トイレ・ゴミ等の衛生管理	担当者 佐々木、伊藤志 <ul style="list-style-type: none"> 仮設トイレ設置までのトイレ管理 ゴミ集積場の決定・管理・ゴミの捨て方等の指示 伝染病、食中毒等衛生面の配慮

*本校の物資備蓄倉庫<大曲小学校・旧北神小学校
毛布・食料>

… 市担当者を責任者として自治組織中心に避難所が運営される

避難所開設以降

自治組織の設立

避難所運営委員会 **リーダー** 大川西根地区連会長 **三浦 英司 氏**
 内小友地区連会長 **橋村 誠 氏**

避難所運営に派遣された市職員 ・ 学校代表者
 避難者による自治組織の代表者 ・ ボランティア組織の代表者

事前に話し合っておきたい

- * 業務内容の割り振り（町内会等の自治組織や地域自主防災組織で）
- * 避難所における生活ルールの決定（清掃・点灯・消灯・ゴミ処理 他）

【情報班】 <ul style="list-style-type: none"> 地域災害情報、防災関係機関への情報提供 地域住民への情報伝達 	自治組織（自主防災組織）の分担 班 長 中邑 正 氏 他11名
【消火班】 <ul style="list-style-type: none"> 消防団と連携し、火災の延焼拡大防止 各地域危険箇所の確認 	班 長 加藤兼雄 氏 他11名
【避難誘導班】 <ul style="list-style-type: none"> 避難指示、避難勧告及びおそれがある場合、住民への安全確保と避難所への誘導 	班 長 伊藤広充 氏 他11名
【救出救護班】 <ul style="list-style-type: none"> 建物倒壊、土砂災害時の消防機関への積極的協力と資機材提供 負傷者の救命及び応急措置 給食給水班と連携し支援物資の確保 暖房等燃料の確保 	班 長 高橋 明 氏 他11名
本避難所最寄りの備蓄倉庫（大曲小学校、旧北神小学校）	
【給食給水班】 <ul style="list-style-type: none"> 大仙市から配分された食料・飲料水の配分と地域内から提供された食料等の配分及び炊き出し 	班 長 中邑喜勢治氏 他11名

だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業 避難所開設訓練
(9月4日、大曲西中学校)

大仙市長様、市教育委員会の皆様をはじめ、地域住民の方々、公民館長、大曲消防署、警察、市役所の総合防災課、小学校からの見学者も合わせて約300名が参加する中で、避難所の開設訓練を行いました。中学生のサミットメンバーは前庭への避難から訓練に参加し、その後「総務、施設・安全、広報、物資、給食、救護、保健衛生」の7班に分かれて、西中生と共に活動をしました。

避難所の運営にあたって、生徒は次のような役割分担をしました。

- ☆総務班：本部設営、受付業務、避難所運営（避難住民のケア・生活についてのお知らせ・各班の連絡調整）にあたる。
- ☆施設・安全班：居住スペースの確保や施設の安全点検にあたる。
- ☆広報班：案内・表示や避難住民への情報掲示を行う。
- ☆物資班：物資（水）の受け入れ、飲料スペース設置、避難住民に配給（アルファ米）、ランタン設置を行う。
- ☆給食班：炊き出し（おみそ汁）を行う。
- ☆救護班：応急救護スペースの設置、避難住民の健康状態の確認・把握を行う。
- ☆保健衛生班：トイレ等の衛生管理や衛生物資の設置・配給を行う。



日程 ■4日(木)

- 14:30 地震発生、避難訓練
- 15:10 避難所開設準備
- 15:30 避難住民受け入れ開始
- 16:15 食事の提供
- 16:35 自主防災組織への引き継ぎ
- 16:50 避難住民帰宅
- 17:00 食事
- 17:30 撤去、後片付け
- 18:30 避難所訓練終了の会



避難訓練終了の会



避難開始:生徒玄関より



2階より避難する3年生



駐車場に避難完了



体育館にて避難所開設を指示



居住スペースづくり①



居住スペースづくり②



避難者の受付



救護班の聞き取り調査



広報班による情報提供①



給食班による炊き出し



広報班による情報提供②



自主防災組織への引き継ぎ



自主防災組織への引き継ぎ



避難所運営終了の会



防災管理監のお話

26年度「大曲中学校 地域合同防災訓練」報告書

1 ねらい

- (1) 地震の性質やそれに伴う災害を考え、安全な行動がとれるような態度や習慣を育てる。
- (2) 災害時において、冷静かつ迅速に的確な行動がとれるようにする。
- (3) 地震の発生を想定し、地域住民と中学生・防災関係者が一体となって避難訓練及び実践的な応急対策活動等の訓練を実施することにより、総合的な防災体制の確立及び意識の高揚を図ることができるようにする。

2 実施日時 平成26年10月30日(木)

3 実施場所

大曲中学校 校舎内(体育館含)及び校地内(前庭, 駐車場, グラウンド等)

4 参加者

大曲中学校生徒(751名)
 教職員(60名) PTA会員(15名)
 若竹町住民(25名) 大仙市消防本部
 大仙市防災課 大仙市水道局

5 実施内容

◎訓練1 (地震避難…1・2・3年生)

平成26年10月30日(木)午前9時頃、緊急地震速報が発表され、秋田沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生し、大仙市でも震度6強から7の強い揺れが30秒ほど続いたという想定である。揺れが収まったのを確認後、指示に従い一斉に体育館に避難した。



◎訓練2 (煙道避難…1年生・若竹町民)

地震発生後、校舎内の多数の箇所では火災が発生。廊下が煙幕で避難通路の視界が遮られたことを想定し、煙道(煙体験ハウス)を通して避難した。



◎訓練3 (初期消火活動…1年生・2年生)

火災発生後の初期消火活動として、水消器による消火活動を行った。



◎訓練4 (水害避難…1~3年生, 避難所開設…2・3年生・若竹町民)

前日からの大雨の影響で雄物川流域の河川が増水し、若竹町の一部の住宅では建物の床上・床下浸水が相次ぎ、大仙市より避難指示や避難勧告が発令され、大曲中学校は避難所に指定された。地域の被害状況を確認後、校長が、避難所開設の指示を出し、避難所開設に取りかかった。



◎訓練5 (心肺蘇生CPRとAED…3年生)

災害時には、救急車を要請しても直ちに現場へ駆け付けることは困難な状況になりやすい。



傷病者においては一刻を争う状態もあり得ることから、一次救命処置の仕方について理解し、とっさの場合においても一次救命処置ができるようにする。

◎訓練6 (炊き出し…1~3年生・若竹町民)

災害時において水道管が破裂し、上水道の確保ができない中、市より給水タンク車が避難所である大曲中学校にいち早く応急給水に来たという想定で、給水車の水を使用した炊き出し訓練を行った。



6 訓練を終えて(今後の課題)

若竹町内会から30名、PTAから10名の参加をいただき、昨年に引き続き諸機関者含め総数820名により実施することができた。今後も防災意識を地元住民と中学生が互いに高め合い、いざというときに備えることの大切さを改めて感じた。また、自助・共助の重要性を確認できたことにも意義があった。地元町内会・市総合防災課・市水道局・大曲消防署等諸機関との事前の打ち合わせの回数を昨年度よりも増やした。その結果、担当者も流れがより把握でき、円滑に訓練を行うことができたと感じた。しかしながら、新人総体、学校祭、学期末考査、学期末評価、生徒会選挙等と並行しての準備となるため、実施する場合は、実施時期や担当者の精選等、学校事情に配慮する必要性を感じた。

平成26年度 平和中学校避難所開設宿泊訓練

「自分たちのふるさとを自分たちの手で守る」

- 期 日 平成26年9月16日(火)～17日(水)
- 場 所 大仙市立平和中学校
- 対 象 平和中学校生徒・教職員・地域住民・神岡小学校6年生・大仙市防災課職員・地元企業他
- 内 容 本校では、次のような想定の下、右下の表の日程で訓練を実施しました。

9月16日(火)午後2時30分頃、西仙北地域を震源とする直下型の強い地震が発生し、大仙市地域で震度6を記録した。神岡地域の家屋150世帯が全壊または半壊し、各避難所に市民が集まった。倒壊を免れた平和中学校にも避難者が集まり、避難所を開設することとなった。平和中学校では、6校時の授業中に地震が起こった。そのため、生徒たちの身の安全確保のために平和中学校にとどまり、避難所の開設・運営に協力することとなった。

■活動の様子



総務班（生徒会執行部）
被災者受け入れや名簿作成を行いました。また、各係との連絡調整も行い、避難所の本部的役割を担いました。

施設・安全班（生活、体育）
住居スペースの確保や施設の安全点検を行いました。

- 日程 ■16日(火)
- 14:30 地震発生、避難訓練
 - 15:30 避難所開設準備
避難者受け入れ開始
 - 17:00 炊き出し開始
 - 18:00 食事配膳・夕食
 - 22:00 就寝
- 17日(水)
- 6:00 起床
 - 6:30 朝食準備
 - 7:00 朝食（非常食）
 - 8:00 避難所運営終了の会



広報班（広報）
案内・表示や避難者への情報伝達を行いました。

物資班（購買、図書）
物資の受け入れや避難者に配給を行いました。

給食班（給食、学習、各班）
食料及び飲料水を確保し、炊き出しを行いました。また、各班と協力しながら避難者への食事の配給も行いました。



救護班（保健）
避難者の健康状態の確認・把握を行いました。



衛生班（JRC、整美）
トイレ等の衛生管理や衛生物資の設置・配給を行いました。



- 成 果
- ・災害時における避難所開設にあたり、生徒・教師・地域住民が一体となって避難所運営を行うことができました。
 - ・訓練参加者による組織編成を行い、災害時を想定した具体的な活動に取り組みながら、避難所運営に関わる役割分担や協力・支援方法を学ぶことができました。
 - ・地域の一員である中学生が自分の役割を自覚し、主体的に運営に参画することができました。



小学校の交流活動
& 避難所開設訓練

南外小学校	7月23日(水)	被災地訪問と交流 (南外中学校と共に)
神岡小学校	10月17日(金)	被災地へうちわや益金による支援 (平和中学校と共に) 地域避難訓練の実施
豊岡小学校	8月1日(金)	気仙小学校訪問 学校田で収穫したお米のプレゼント
太田東小学校 太田南小学校 太田北小学校	7月9日(水) ～10日(木)	「太田子ども会議」による交流計画立案 三小学校合同修学旅行での花植え交流 メッセージうちわやお米の贈呈



平成26年度南外小学校 被災地交流の実績

1 交流被災地 宮城県本吉郡南三陸町 志津川小学校、志津川中学校、仮設自治会館

2 期 日 平成26年7月23日（水）

3 参加児童 6年生全員（16人）、引率教員5名、保護者10名
※南外中学生徒会と連携して実施

4 被災地訪問&交流Ⅰの概要

(1) 被害箇所の見学・・・防災庁舎、旧漁業市場



(2) 志津川小学校、志津川中学校の先生方、仮設自治会館の皆様と交流



↑幸いにも、その日、志津川を訪れていた天皇陛下に拝謁

(3) 児童の感想

- ・宮城県本吉郡南三陸町に7月23日に行きました。最初に行ったのは、防災庁舎です。そこにはたくさんの千羽鶴が飾られていて、線香がたかかれていました。多くの方がここで亡くなったことが分かりました。中学校で見たビデオでは、本当に津波のつめあとが大きかったです。(I. N)
- ・私が夏休み中に心に残ったことは被災地訪問です。南三陸町に行きました。建物はボロボロで、特に防災庁舎は、私が見た中では津波の傷跡がよく分かるくらいボロボロでした。震災は恐ろしいものだなあと感じました。志津川小・中学校で聞いた話だと、一番高い所で津波が30mくらいにもなったと聞きました。地震はいつくるか分からないので、日頃から気をつけて過ごしたいと思いました。(I. M)
- ・夏休み中の思い出の一つは、南三陸町を訪問したことです。最初に防災庁舎に行きました。防災庁舎は、鉄の骨組みしか残ってなかったし、近くには漁業用の船が流されてきていたので、津波はすごく力が強いのだなあと感じました。小学校に行って話を聞いたら、学校は高台にあって助かったけど、津波はすぐ近くまで来たという話や、図書室にある棚などが全部倒れたという話を聞きました。地震の怖さを感じました。仮設住宅に行くと、隣と家がくっついていたので、生活は不便だろうなあと感じました。生活が元通りになるまでは大変だろうなあと感じました。(S. S)
- ・私は夏休み中、南三陸町に行って来ました。3年たった今でも、津波が押し寄せてきたところが分かりました。仮設住宅のみなさんは、津波がきたときの様子をいろいろ話してくれました。つらいはずなのに、みなさん笑顔をやさしく私たちに質問に答えてくれて、とてもうれしかったです。(S. M)

5 交流Ⅱ

(1) 学習田で収穫したした「あきたこまち」を南外中のお兄さん・お姉さんに託し志津川小へ（10月20日）



大槌町との交流

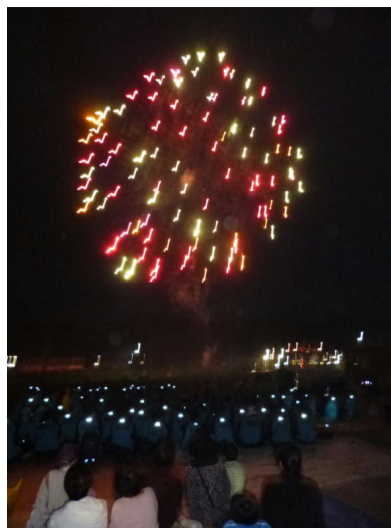
～平和中学校との連携から～

大仙市立神岡小学校

9月4日(木)

平和中学校の全校生徒が岩手県大槌町を訪問し交流してきました。

神岡小学校では、全校児童が大槌町の皆さんにメッセージをうちわに描いて(書いて)、平和中学校の生徒から届けていただきました。



平和中提供、大槌町での花火大会



花火大会に廃品回収での益金で支援しました。



水害を想定した地域避難訓練

10月17日(金)

大仙市立神岡小学校



避難してきた地域の方々を校舎3階に案内します。



車イスの方を、階段昇降機で慎重に案内します。

避難対象の4町内の方々に、町内毎に各教室に避難していただきます。6年生児童が、名簿作成をしています。他の児童は、飲み物を配ったり、トイレへの案内をしたり、それぞれの役割を果たしています。

◇ 訓練の流れ ◇

- ・ 神岡支所市民サービス課長より、校長に避難所開設を要請。(課長が来校)
- ↓
- ・ 校長から職員と6年生児童に避難所開設の指示。
- ↓
- ・ 神岡小学校3階に避難所を開設。地域住民が避難開始。
- ↓
- ・ 安否確認をし、訓練終了。* 体育館に移動し全体会



水害状況、緊急避難グッズ資料コーナー



約50名が避難



全体会で、大仙市防災管理監から講評をいただきました。



段ボールトイレ

復興に花と笑顔を

太田地域連合修学旅行団被災地交流プロジェクト

大仙市立太田南小学校・太田北小学校・太田東小学校

◎太田地域では、3小学校合同修学旅行において、昨年度から被災地に花を植える交流活動を行っている。今年度は、3校合同で事前学習を行い、交流プロジェクトのキャッチコピーや花壇のデザインを考えた後、修学旅行初日に交流活動を行った。

◎当日は、仙台市復興支援サポートステーションや地権者、地元の大学生等と一緒に花苗植栽の交流活動を行った。3小学校は、この交流活動により子どもたちに被災地の現状を実感させ、太田中学校進学後の本格的な岩手県大槌町支援活動に結びつける考えである。

プロジェクトの流れ

事前交流会での合同道徳

キャッチコピーの募集



花壇デザインの募集

修学旅行での花植え交流活動

太田中学校と連携した活動

- ・太田子ども会議(児童会・生徒会代表者の合同会議)で被災地交流計画を協議
- ・アルミ缶回収の継続
- ・メッセージうちわの作成
- ・夏季休業中の大槌町訪問へ小学生や保護者の希望者やマーチングバンドが参加
- ・まごころ米の贈呈

事前の活動

新聞記事を題材にした三校合同の道徳授業



当日の交流活動

ボランティア活動の状況や復興の進捗状況について説明を聞いた後、一緒に花植え作業を行った。



事後の活動

「東日本大震災復興応援メッセージ展」に出品した太田東小学校の寄せ書き



活動の振り返りや感想

進もうよ 明るい未来へ！

太田東小学校 田沢美侑

私は、花を植えながら東日本大震災でできずつたこの町、この町の方々が私たちが植えた花によって元気や笑顔を取りもどしてくれたらなあ、というようなことを考えました。終わったら、立派に育ちきれいな花が咲き、明るい町になってほしいと思いました。これから、秋田から1日も早い復興を願って、やれることは積極的にやっていきたいです。

太田東小学校 水谷桃花

私は花を植えながら、仙台市若林区のみなさんが笑顔、元気を少しでもとりもどしてくれたらいいなと思いました。花植えが終わって、もっと3年目にあったことを聞いてみたいと思いました。そして、これからはボランティアに参加していきたいと思いました。

太田東小学校 高橋侑希

ボランティア活動は仙台市若林区種次地区に行って花植えをしました。被災地の人が元気を取りもどしていつも笑顔になってほしいなという思いで植えました。花を植えたとなりに家が一軒あって、その家の人は一人しか生き残らなかったからその人を元気づけて被災地の人もみんなも元気づけてほしいと思いました。そして、笑顔を見たいと思いました。

太田北小学校 佐々木駿也

被災地は津波でこわされたままの建物がまだたくさんありました。その中に学校もありました。ガラスは割れて、周りにはどろやガラスのようなものもありました。花植えをするところに行ってもこわれた家がありました。種次地区のみなさんの心がやすらぐように、すこしでも笑顔がふえてほしいという思いで花を植えました。

太田北小学校 藤澤希築

種次地区に行って見た風景は、建物や木はほとんど無く、だれも住んでいないこわれた家が2、3軒あるだけでした。ぼくたちは、白のベゴニアを植えました。すこしでも災害にあった方々の笑顔が増えることを願って、花を植えました。

太田北小学校 近藤穂佳

修学旅行で被災地の種次地区に行きました。雑草が生え、こわれて人が住んでいない家もありました。木も少ししかないところでした。私たちは白のベゴニアを植えました。その時「いつまでもきれいに咲いてほしい」という思いで植えました。

太田北小学校 高橋凜湖

今年、全校で田植えをし、秋になって稲刈りをしたお米を、大槌町に届けました。すこしの量でしたが、力になれるようにと心をこめて送りました。中学校に行っても、被災地の方々の笑顔がふえるよう交流活動を続けたいです。

太田北小学校 高橋歩花

修学旅行で種次地区で花を植えたとき、「被災地の人々が笑顔になってほしい」という願いをこめて植えることができました。また、春に植えた稲が大きくなり、10月に稲刈りをしました。そのお米の一部を大槌町に送りました。中学生になっても被災地との交流活動があるので、がんばろうと思っています。

太田南学校 戸澤梓桜

私は、被災地で花を植えながら、周りには何もなくて太田とは比べものにならない風景にびっくりしました。私は、はやく復興して欲しいと強く思いながら植えました。そして、被災地の人たちに一人でも多く笑顔が増えてほしいと思いました。これからは、どんどん復興が進んで、元の町にもどってほしいです。

太田南学校 田口芳美

私は、被災地を訪れてみてとても被害が大きかったことが分かりました。中学生になったら、このような活動を通していろいろな人とふれあったり、関わりあったりして被災地に笑顔と元気を届けられるようにがんばりたいです。私は、被災地が元の町にもどるようにこの活動を続けていきたいと思っています。

気仙小学校を応援しよう

大仙市立豊岡小学校

「今年もおいしいお米を送るぞ」 ◆全校田植え：平成26年5月28日（水）



たくさんの協力をいただいて
「米の子スクスク田んぼ」に田植え



心をこめて たいせつに



たくさんのお米が送れるといいね

「ワクワク・ドキドキ初訪問」 ◆陸前高田市立気仙小学校訪問：平成26年8月1日（金）



気仙小学校に着きました



お米はこうやって育てています



交流ゲームで仲良くなりました



おいしいお米を送ることを
約束してきました

「いっぱい送れそうぞ！」 ◆全校稲刈り：平成26年9月30日（水）



案山子が見守りました



全校みんなの力をひとつにできました



「ハサ」まで運びます



気仙小の皆さんからメッセージをいただきました

「今年も送るぞ 200kg」

◆お米を送ろう：平成26年11月中旬予定



今年も豊作でした

- ★ とれたお米を2kg ずつ小分けにして120袋を気仙小学校に送ります。今年は、240kgになります。
- ★ 小分け作業は、5年生・6年生が担当します。
- ★ メッセージは、全校児童一人ひとりが書き入れます。
- ★ 最後にみんなの思いを添えましょう。

見て聴いて やって感じて 思いを届ける

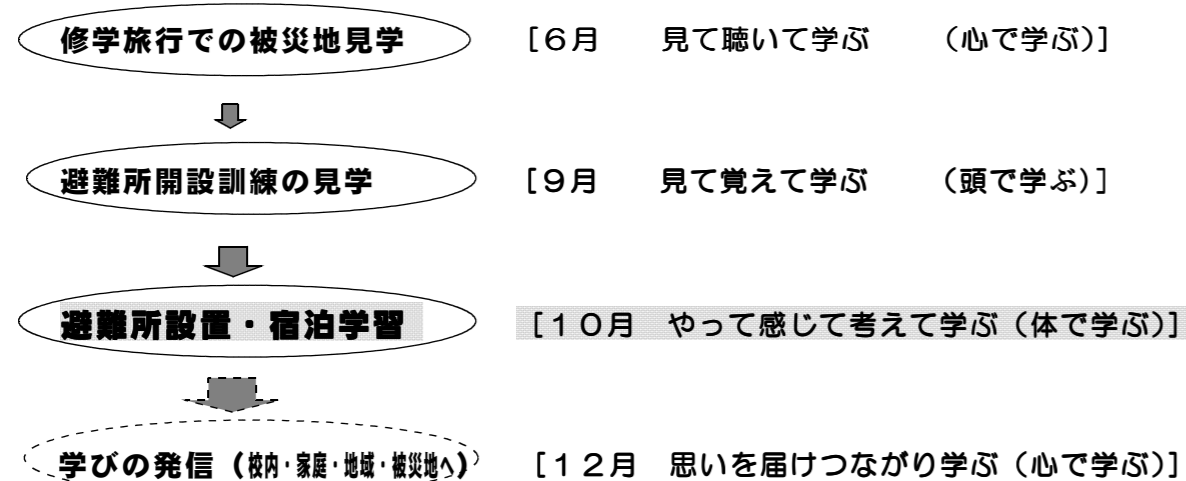
～防災体験学習を通して思いを育て届ける～

大仙市立西仙北小学校

避難所設置宿泊体験学習のねらい

- ① 避難所設置の目的や意義を実感的に理解させる。
- ② 避難所宿泊体験を通して共感的な理解を促す。
- ③ 被災地や避難所開設訓練の見学をつなげ生かし、社会参画へと学びを発展させる。

【学びの流れ】



【写真でたどる学びの様子1】

《修学旅行での被災地見学》



[被災直後の写真と語り部] [家々が津波にのまれた跡地] [亡くなった子供達を弔う地藏] [広大な土盛り復旧工事]

《避難所開設訓練の見学》



[避難の様子を真剣に見学] [避難所に必要な物品をメモ] [居住スペース作りを確認] [受付の内容と仕方をメモ]

【写真でたどる学びの様子2】

《避難所設置・宿泊学習》



[シートを敷き次は壁作り] [作業には協力が不可欠です] [居住スペースが今夜の寝室] [居住スペースが見事完成]



[夕食「豚汁」の味見] [夕食を受け取る子供達] [夕食「わかめごはん」] [アルファ米の味は?]



[間もなく就寝時間です] [朝方、暖をとる子供達] [起床し寝具を片付けます] [居住スペースの解体・撤去]

【感じたこと・思ったこと・考えたこと】

1日泊まるだけでもたえきれなかったのに、一か月も生活するのは、どれほどたいへんかということを感じることができました。

寝ていてだんだん寒くなり、起きたら体や首が痛く、こんな生活をずっと続けるのは、たいへんなことだと改めて思いました。

眠るときにすごく寒くて、なめてたなあと思いました。東日本大震災の時は雪が降っていて、もっと寒かったなあと思いました。

アルファ米は、普段のご飯より味がなかったけど、お湯を入れるだけでできるなんてすごい便利だなあと思いました。

日本は地震国。だからこそ、備えは大事だなとこの体験を通して思いました。また、避難所での生活は、物音(せき、くしゃみ、声、足音など)が響くし気を遣うので落ち着かず、とても厳しいものだとも体験することでよく分かりました。

段ボールで部屋を作ったとき、運ぶ人、ガムテープを切る人、貼る人、支える人など、作業を分担して協力して素早く作ることができてよかったなあと思いました。

段ボールを組み立てる時はとてもたいへんでした。かべには三角の段ボールをところどころにつけ、たおれないように工夫しました。

避難したときは、みんなと協力し合い支え合いながら生活をしなければいけないんだなあと思いました。ふつうのことが、とても幸せなことなんだなあと思えました。

体験し学んだことを5年生や家族、お父さんやお母さん方、地域のみなさん、県民のみなさん、そして、被災地の語り部の方やみなさんに、発表や作文やお手紙で伝えたいと思います。私たちができること、私たちができることで、みんなが少しでもハッピーになれば!

